



「2018年度の事業報告にあたって」

社会福祉法人大分いのちの電話
理事長 金子進之助

昨年度の事業報告をお送りする時期になりました。全国的に見ても、大分県内でも一頃に比べて自殺者が減少してきたのは喜ばしいことです。しかし人口割合で見るとまだまだ努力が必要だと思えます。昨今のニュースを見ても「就職氷河期を引きずったかと思われる問題」「8050問題（高齢者と引きこもりの方の家族）」「被虐待児童に見られる家族の問題や子育ての問題」「過労による自殺問題」「病苦」「生活上の問題」など、生き難さを抱えて暮らしている方がおられることに気づきます。

自殺問題に加えて、このような悩み多き魂の叫びを24時間、365日いのちの電話は聞き続けて参りました。これを電話口で聴くのは自ら志願して相談員になった方々です。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。（ヨハネによる福音書）」というように、世の中のためになろうと決断して応募された相談員の働きなくしては、いのちの電話は成り立ちません。近年この相談員が、減少傾向にあります。相談事業を続けるためには、新しい相談員の参加が必要です。

さらに昨年度は、寄附金収入の減額と事務局移転に伴う出費が重なり、単年度収支がマイナスになりました。財務・募金活動にも力を入れなくてはなりません。

統計に見られる相談通話はごく一部で、なかなか電話が繋がらないと、嘆いている多くの方がおられます。そのためにも相談員の確保と財務の確立が大切です。賛助会員はじめ、大分いのちの電話を支えてくださる皆様のご協力を心から御願いたします。

皆様の安寧とご自愛とお祈りいたします。

2019年度 事業計画

1、電話相談関係

(1) 相談体制

年中無休24時間

(2) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」

・毎月10日（24時間）、年12回実施

2、大分県自殺対策講演会（大分県との共催）

・第1回 令和元年10月（予定）

・第2回 令和2年 2月（予定）

3、第14回カウンセリング公開講座・第36期相談員養成講座の開催

4、広報活動等

(1) 通信誌等

通信誌100号・101号・102号の発刊 1,300部

令和元年度事業報告集の発刊 1,000部

(2) 自殺予防いのちの電話カードの高校への配布 1,000部

(3) 大分いのちの電話ロゴマークの活用

(4) 高校生用自殺防止カードの活用

(5) 大分いのちの電話リーフレットの活用

(6) チャリティ活動

・第33回大分いのちの電話チャリティバザー

・第14回大分いのちの電話支援チャリティコンサート（大分ルーテル教会）

・第4回大分いのちの電話のためのチャリティコンサート（佐伯ロータリークラブ）

(7) 法人関係者による講演活動

関係団体及び学校等

(8) マスコミ取材

新聞・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ等